

# 平成27年度 事務事業マネジメントシート

事業名	リサイクル館包括管理運営事業			会計	款	項目	大	小
				01	04	02	02	01 06
政策	02	2節	生活の豊かさを実感できる流山（生活環境の整備）	主管課	クリーンセンター			
施策	2-2	環境共生社会を目指す廃棄物循環型都市づくり		主管課長	糸井 正人			

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	リサイクル館施設	意図	リサイクル館の施設運営の適正な維持管理に努め、循環型社会を構築する。
事業内容	リサイクル館の施設運営について、施設稼働時から行ってきた運転管理業務委託だけでなく、市が行ってきた施設整備や用役の調達も含め民間活力の導入する包括管理運営委託をすることにより、支出の平準化を図るとともに適正な管理運営を行い、循環型社会の構築を目指すものである。			
事業開始から現在までの状況変化	平成15年度から当該リサイクル館施設が稼働しているが、平成24年度からは、従来の運転管理業務委託に加え、市が行っていた施設整備や用役等の調達も含め民間活力の導入し、包括管理運営委託を行い支出の平準化を図るとともに、民間企業のノウハウを活用することにより、適正かつ安定的な施設の運営を行っている。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
指標	① 不燃系廃棄物搬入量	7,252	7,162	7,408	t	→→	あらかしごみ処理年報（不燃系合計＋資源合計）
	② 不燃系資源搬出量	1,564	1,399	1,938	t	↓↓↓	あらかしごみ処理推移（資源化施設による資源化）
	③ 不燃系残渣量	5,688	5,763	5,470	t	↑↑↑	①-②=③
	④ 不燃系資源化率	21.60	19.50	26.10	%	↓↓↓	②÷①×100=④
指標で表すことができない定性的な成果	施設運営の安定的な維持管理			目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 平成15年度から当該リサイクル館施設が稼働しているが、平成24年度からは、従来の運転管理業務委託に加え、施設整備や用役等の調達も含めたリサイクル館包括管理運営委託を行い、支出の平準化をするとともに、民間企業のノウハウにより、適正かつ安定的な運転を行い循環型社会の構築を目指すものである。			
事務事業のコスト		平成25年度	平成26年度	平成27年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		211,659,600	217,347,400	218,153,400			
事業費(b)(円)		202,576,500	208,364,400	208,364,400			
うち一般財源		202,576,500	208,364,400	208,364,400			
職員給与費(c)(円)		9,083,100	8,983,000	9,789,000			
人役・職員(人)		1.30	1.30	1.30			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H27)の改善計画	施設稼働から13年が経過し、民間活力を導入する包括運営管理委託とし適正な廃棄物処理の実現を図ると共に、委託業務の履行状況を第三者機関を含め検証を行うモニタリングを行う。	③取組の課題	廃棄物処理運営の確認は定期的にモニタリングする必要がある。また、28年度に実施する総合評価一般競争入札に向け仕様書等の見直しを図る。
②今年度(H27)に実施した取組	施設稼働から13年が経過しているため、包括運営管理委託とし、適切な廃棄物処理及び業務履行の確認を第三者機関を含めた検証として、毎月1回以上のモニタリングを行った。	④今後の改善計画	定期的に第三者も含むモニタリングを継続し、適正な履行状況の確認を行う。また、28年度に実施する総合評価一般競争入札実施に向けた仕様書等の見直しを図る。